

(様式1)

令和4年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 010	提案機関名 湘南農業協同組合
要望問題名 種なしピーマンの新規作型の開発について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 <p>施設トマト等の長期にわたる価格低迷対策として、当農協管内では有望品目として令和2年から種なしピーマンの栽培を導入し、令和3年現在、栽培農家6戸、面積約50aで栽培されている。今後も、施設トマト等の品目から種なしピーマン栽培を希望する生産者が増え、栽培面積の増大が想定される。しかし、急激な生産量の増大により価格が低下する恐れもある。現在は、促成栽培、半促成栽培で栽培されているが、作型拡大により販売期間を長期とし安定販売が期待される。</p> <p>作型拡大として、ハウス夏秋栽培等が考えられるが、促成栽培・半促成栽培以外は栽培経験がないため、栽培上の課題や経済性が不明である。そこで、種なしピーマンハウス夏秋栽培等新規作型について検討願いたい。</p>	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部野菜作物研究課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	<p>当所では半促成栽培の試験を行っておりますが、ハウス内が高温になる7月以降は着果不良や生理障害により生産性が低下するため、収穫は7月上旬までを目途としています。ピーマンの主産地（高知、茨城など）では夏秋作型に取り組んでいる事例もあり、近隣の茨城県では、施設と露地の組み合わせで周年集荷が行われています。夏季高温時は、施設栽培で遮光や遮熱対策により生産されていますので、こうした先進地における既存成果や優良事例等を普及指導部門から情報提供するとともに、現地指導します。</p>		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			